

指標名： 救命救急病棟入室中の経口気管内挿管患者の口腔トラブル発生率

背景

救命救急病棟で経口気管内挿管している患者の大半は循環・栄養状態が不安定である。そのような状況では、皮膚は脆弱化し口腔トラブル(以下、トラブル)が容易に発生する。その上、一度トラブルが起こると治癒に時間を要してしまう。また、挿管チューブは抜けないように固定するため局所的に圧や摩擦がかかることでトラブルの発生を助長する。前年度まではトラブルが発生する前に予防する目的で歯科回診を行っていたが、今年度は口腔トラブル発生前に歯科対診の依頼をかけることができるようになったため歯科回診ファイルを中止した。

データの定義

分子:救命救急病棟入室中における口腔トラブル発生件数

※口腔トラブルとは経口気管内挿管中に発生した口腔(口唇・口角・頬・舌・歯茎・歯)にできた創(びらん・潰瘍も含む)。

分母:救命救急病棟入室中における経口挿管患者数

2018年度のデータ

2018年度年間平均発生率12.96%

2018年3月16日から2019年3月15日までの経口気管内挿管患者の口腔トラブル発生率

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生率(%)	40%	25%	12.5%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%
挿管患者数(人)	5	4	8	8	3	6	5	2	8	5	7	8
口腔トラブル発生件数(件)	2	1	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0

参考データ

2017年度発生率 16.6%

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生率(%)	44%	0%	66%	0%	0%	40%	50%	0%	0%	0%	0%	0%
挿管患者数(人)	9	7	3	3	2	5	4	8	7	10	6	1
口腔トラブル発生件数(件)	4	0	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0

評価

口腔トラブル発生率は12.96%と昨年度と比較し減少している。これは長期挿管患者で多く発生していたことでバイドブロックによる発生が減ったこと、歯科対診ファイル終了後も早期に歯科対診を依頼し予防に努められているためだと考えられる。トラブル発生部位別でみると口唇や、口角、舌に多くチューブが各部位にあたっていることがトラブルの原因になっていると考えられる。また日数も平均1週間程度挿管している人が多く、長期挿管患者に対してはバイドブロックの選択を適宜実施出来ている。救命救急病棟入室患者の経口挿管患者数は少なく母数が少ないため発生率が上がってしまい確実な評価を行えない。今後も継続していく必要はあるが、早期の予防対策は出来ているため予防策の周知は継続とし、質指標における評価は終了とする。

参考文献

参考文献:聖隷浜松病院 栄養管理委員会 口腔ケアグループ作成口腔ケアマニュアル2014、道又元裕著 人工呼吸ケア「なぜ・何」大百科 照林社2005p266-275

